



Little League

2022 年度 NPO 法人リトルリーグ北関東連盟 大会 規 則

I	大会 規 則	1
II	選 手 登 録	1～3
III	服 装	4
IV	用 具	4～5
V	投 手 の 規 則	5～7
VI	試 合 の 準 備	8
VII	試 合 の 運 営	8～11
VIII	監 督、コ ー チ、選 手 の 退 場	11
IX	ス ピ ー ド ア ッ プ	11
X	補 則	11～14
添付資料 1	リトルリーグ特別ルール 離塁規定	14～15
添付資料 2	全員出場ルール解説	16～17
添付資料 3	関東選手権大会規則(2022 年 2 月改定)	18～23
添付資料 4	ティールボール関東大会規則(2022 年 4 月改定)	24～25
大会要項	2022 年度北関東連盟大会内規及び運営要項	26～32
添付資料 5	2022 年リトル年齢早見表	33
添付資料 6	2023 年リトル年齢早見表	34
添付資料 7	変更届用紙	35

世間の情勢やアメリカ本部のルール変更により急遽、変更する場合がございますが、ご了承ください。
変更を行う場合には別途、ご連絡させていただきます。

I 大会規則

- 1 2022 年リトルリーグ公認規定競技規則、トーナメント規則及びガイドライン、法人リトルリーグ北関東連盟内規（本書）並びに公認野球規則を準用する。

II 選手登録

1 バンダリー

- 1) バンダリー内の選手に限り全日本選手権大会(リトル、インターミディエット)に出場できる。
- 2) 選手はそのバンダリー内に住むか、通学先の学校がそのバンダリー内に位置しており、リトルリーグ本部から承認された場合のみ選手資格を有する。

2 選手登録

- 1) リトル適格年齢中学 1 年生の登録は大会年度の 1 月 31 日までに限り、それ以降は認めない。
全日本選手権(メジャー部門、インターミディエット部門)登録は、
2022 年度開催大会は 2022 年 1 月 31 日までに登録された選手に限る。
2023 年度開催大会は 2023 年 1 月 31 日までに登録された選手に限る。
- 2) 3 項の規準により大会の都度定められた登録用紙をもって期日までに選手登録を行う。
- 3) 登録書に選手主将（キャプテン）は背番号に○を付ける。
- 4) 試合成立後、無資格選手（居住地や年齢証明の違反）が、含まれていたことが発覚した場合、該当リーグが出場停止処分となる。

3 選手

注:年齢はリトルリーグ年齢とする。

1) 春季大会マイナー部門『KEIO CUP』北関東連盟大会

学年 小学 5 年生・4 年生・3 年生の選手
人数 9 名から 20 名 背番号は 1 番から連番とする。
連合チームの編成を認める。

2) メジャー部門文部科学大臣杯『JA 共済杯』トーナメント

第 56 回全日本リトルリーグ野球選手権 北関東連盟大会

登録 選手はそのバンダリー内に住むか、通学先の学校がそのバンダリー内に位置しており、リトルリーグ本部から承認された場合のみ選手資格を有する。

年齢 リトルリーグ年齢 10 歳から 12 歳の選手
2009 年 4 月～8 月生まれの選手は登録できない。

人数 9 名から 14 名まで 背番号は 1 番から連番とする。

提出書類 下記グループ I～Ⅲをセットで提出のこと。
発行日付は 2022 年 2 月 1 日から 2023 年 2 月 1 日までにあるか、
若しくは、その期間に有効であるものでなくてはならない。
グループ I：運転免許証若しくはマイナンバーカード
グループ II：住民票（保護者と選手の記載）
グループⅢ：公共料金各種請求書（公共料金領収書の例 ガス、
電気、上下水道、ゴミ収集など）

注 1) いずれも住所日付、保護者名の記載が必要。
ない場合は発行元に再発行 請求をしてください。

- 3) マイナー部門『AIG プレゼンツ MLB カップ 2022』北関東連盟大会
年齢 小学5年生・4年生の選手
(関東大会・全国大会は小学5年生・4年生の選手)
人数 9名から20名まで 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成は原則3リーグまで認める。
それ以上になる場合は理事長・日本協会の承認を得ること。
- 4) メジャー部門『産経新聞旗争奪』第17回東日本選手権 北関東連盟大会
年齢 中学1年生、小学6年生・5年生の選手
人数 9名から20名まで 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。
- 5) 秋季大会マイナー部門 ゼット杯 北関東連盟大会
年齢 小学4年生・3年生の選手
(関東大会は小学4年生・3年生の選手)
人数 9名から20名 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。
- 6) 秋季大会インターミディエイト部門『サイキョウ・ファーマ杯』(仮称) 北関東連盟大会
年齢 リトルリーグ年齢10歳から12歳の選手
人数 9名から20名 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。
- 7) メジャー部門 J A 共済杯 2022 全国選抜リトルリーグ野球大会 北関東連盟大会
年齢 小学6年生・5年生の選手
(全国大会は小学6年生・5年生)
人数 9名から20名まで 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。
- 8) 秋季大会メジャー部門 北関東連盟大会
年齢 小学6年生・5年生の選手
(関東大会は小学6年生・5年生の選手)
人数 9名から20名 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。
- 9) 冬季大会メジャー部門『理事長杯』北関東連盟大会
年齢 リトルリーグ年齢11歳から13歳の選手
人数 9名から20名 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。
- 10) 冬季大会インターミディエイト部門『サイキョウ・ファーマ杯』(仮称) 北関東連盟大会
年齢 リトルリーグ年齢11歳から13歳の選手
人数 9名から20名 背番号は1番から連番とする。
連合チームの編成を認める。

11) インターミディエット部門 JA 共済杯『サンケイスポーツ杯』全日本インターミディエット
北関東連盟大会

- 登録 選手はそのバンダリー内に住むか、通学先の学校がそのバンダリー内に位置しており、リトルリーグ本部から承認された場合のみ選手資格を有する。
- 年齢 リトルリーグ年齢 11 歳から 13 歳の選手
(北関東連盟では中学 2 年生の参加は認めない)
- 人数 9 名から 14 名まで 背番号は 1 番から連番とする。
連合チームの編成 (最大隣接する 3 リーグまで) を認める。
- 提出書類 下記グループ I ~ III をセットで提出のこと。
発行日付は 2022 年 2 月 1 日から 2023 年 2 月 1 日までにあるか、
若しくは、その期間に有効であるものでなくてはならない。
グループ I : 運転免許証若しくはマイナンバーカード
グループ II : 住民票 (保護者と選手の記載)
グループ III : 公共料金各種請求書 (公共料金領収書の例 ガス、
電気、上下水道、ゴミ収集など)
注 1) いずれも住所日付、保護者名の記載が必要。
ない場合は発行元に再発行 請求をしてください。

4 監督及びコーチ

- 1) 全日本選手権(リトル、インターミディエット)北関東連盟大会では、ベンチ入りできる監督・コーチの人数は、選手が試合開始時 12 人以上の場合には、登録されている監督 1 名、コーチ 2 名がベンチに入る事を許される。選手が 11 人以下の場合には、登録されている監督 1 名、コーチ 1 名がベンチに入る事を許される。
選手が試合開始時 11 名以下になった時にベンチを外れた 1 名のコーチは、グラウンドに入ることも認められない。その場合、外から選手またはベンチと会話することは許されない。
- 2) 全日本選手権(リトル、インターミディエット)北関東連盟大会以外の連盟大会では、選手数に影響されず監督 1 名、コーチ 2 名がベンチに入ることが許される。
- 3) 監督、コーチは、成人に限る。
- 4) 監督および監督代行予定者は、指導者講習会を受講しなければならない。
(連盟が認めた場合はその限りではない。)
- 5) 監督、コーチ、引率責任者に変更が生じた場合は、試合前に「変更届」を提出のこと。
「変更届」はリーグ 3 役 (会長・副会長・事務局長) いずれかの印があれば認める。
- 6) 監督は連盟所定のバッジを左胸に着用のこと。

5 ベンチ入りできる者は、登録した監督、コーチ、選手とする。

- 6 シートロック時に限り背番号なしのユニフォームで 3 人まで自チームの補助係を認める。
ベンチ入りはできない。

Ⅲ 服 装

- 1 監督、コーチ、選手は大会本部のチェックを受けるまで I Dカードを着用する。
- 2 選手は全員統一した服装（帽子から靴まで同色、同形、同意匠、アンダーシャツの白は認めない）を着用しユニフォームの胸にリーグ名の表示のある物に限る。ただし、ティーボール大会は除く。
- 3 監督、コーチの上着は襟付きの白色、スラックス（ズボン）は下記の通りとする。
 - 1) 監督、コーチは 2)項以下、同一の服装であること。ズボンはベルト有無も統一のこと。
（連盟が認めた場合その限りではない）
 - 2) 白、黒、紺、茶、灰、ベージュ各色系を可とする。
 - 3) 華美な色は不可。
 - 4) 全体が単一色であること。（別色のライン等があるものは不可）
 - 5) チノパンは可。
 - 6) ジーンズは不可。
 - 7) ショートパンツは可とする。
ショートパンツの色とショートパンツ着用時の靴下（ハイソックス、短いソックス両方可）の色は、上記「2）項」に準ずるとする。
 - 8) リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること。
 - 9) 靴とベルトは別色になっても良いが、監督、コーチ同志は同色の組合せのこと。
- 4 監督、コーチの帽子は選手と同じものまたは白で統一したものを着用する。
インターメディアツ部門では、監督・コーチの服装は選手と同じユニフォーム、帽子を着用して良いが、金属のスパイクは使用できない。

Ⅳ 用 具

- 1 捕手は、試合及び練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）・プロテクター（ロングタイプ又はショートタイプも可）・マスク・スロートガード（のどあて）・およびカップを着用する。
捕手の正式な装具を着用していない選手は、投球練習中であっても座って投球を受ける事は出来ない。
- 2 バットリング・マスコットバット・鉄棒・メガホンのベンチ持込を禁止する。
- 3 バットは公認の物を使用し、変形やキズのある物は使用しないこと。非木製バットで下記イメージ印字表記があるものを使用すること。
- 4 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。ただし、派手なものは好ましくない。なお、投手は使用できない。
- 5 サングラスの使用は許可する。
但し、着用可能サングラスは、スポーツサングラスで反射するものは除き、フレームは色の制限はないが白色は認めない。
注：サングラスを帽子の上に着用する行為は認めない。また、破損などの負傷も考慮し自己責任で使用する事。
- 6 ヘルメットの顎ひも付の物はきっちり着用すること。
打者ヘルメット「フェイスガード付き」および、「Cフラップ付き」を許可する。
顎ひもの装備できない物も許可する。許可を受ければ守備の時もしようかとする。
- 7 グラブの紐が必要以上に長いものは認めない。
（長さに規定はないが、タッグプレーによる相手選手の眼球に入る事故を防ぐため、試合前の用具チェック時に判断された場合は、是正すること。）

- 8 投手のクラブについては縁取り、しめひも、縫い糸を除くクラブ本体は（捕球面、背面、網）は白色、灰色以外の1色でなければならない。
また、守備位置に関係なく、野手はPANTONEの色基準14番より薄い色のクラブを使用することはできない。
- 9 胸部保護パッドを着用すること。着用していない選手は試合に出場できない
- 10 帽子内に頭部保護用インナーキャップ(ヘッドガード)の着用を推奨する。

V 投手の規則

全日本選手権北関東連盟大会(リトルインターミディエイト大会)を除く、各北関東連盟大会に適用

1 投球数と登板間隔

- 1) リトル部門：降板した投手はその試合では投手に戻れない。
インターミディエイト部門：投手は一度降板し、他のポジションに移っても、控え選手と交代しなければ、その試合で一度だけ再登板出来る。但し、同一イニング中に更に違うポジションに移動できない。
投手の投球数と休息日について、休息日が必要となる投球数は『その投手が対峙した最終打者へ投じた1球目の投球数が基準』となる。
例えば、投手が累計投球数18球となっている段階で次打者と対峙し、その打者に対し6球を投じて合計投球数が24球になった場合、①その打者が出塁する、②その打者がアウトになる、③第三アウトが成立し、そのイニングが終了する、④その打者が打席を完了する前にその投手が降板する、のいずれかのケースで降板すれば記録上は、その投手の投球数は「20球以内」とカウントされる。
これは休息日数が変わる35球、50球、65球のそれぞれの上限投球数でも同様の対応です。
- 2) 投手が、1日及び1試合に投球できるのは13歳以上95球、12歳と11歳は85球、10歳以下は75球までとする。小学3年生が投球する場合は50球以下とする。
- 3) 20球以下の投球の場合連続した試合に投げられる。但し合計85球迄。10歳以下は75球まで当日次の試合の場合、年齢別投球数から実投球数を減ずる。
- 4) 21球以上投球した投手は1試合間隔を空ければ、投手として出場できる。
なお、当日2試合に連続登板し、2試合の合計投球数が21球以上になった場合は、1試合空けなければならない。又は休息日をクリアしていれば、連続した試合に登板できる。
但し、いかなる状況下でも、投手は3日間連続して投球してはならない。
- 5) 41球以上の投球を行った投手はその日は捕手を務めてはならない。
打者に対しての間に投球数が40球に到達した場合次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すればその投手はその後捕手となれる。
- 6) 1試合に4イニング以上捕手を務めた選手はその日投手になれない。
 - ① 4イニングはアウト数12ではなく、守備についたイニング数とする。
イニング数はプレイがかかった時点でカウントされる。
 - ② この4イニングは1試合での数であり、2試合行った場合の合計のイニングではなく、それぞれの試合でのイニング数である。

- ③ 試合で3イニング以内捕手を務めた選手が投手に交代し、同日21球以上投げた場合は、その日は再度捕手に交代してはならない。

例外：投手が打者と対戦中に投球制限の20球に達した場合

- (ア) その打者が出塁する。
- (イ) その打者がアウトになる。
- (ウ) 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する。
- (エ) その打者が打席を完了する前にその投手が降板する。

- 7) 休息日は、1日に66球以上投球したときは、4日間、51～65球 3日間
36～50球 2日間・21～35球 1日間・1～20球 必要なし。

2 投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合

- 1) その打者が出塁するまで続投できる。
- 2) その打者がアウトになるまで続投できる。
- 3) 第3アウトが成立し、そのイニングが終了するまで続投できる。
- 4) その打者が打席を完了する前にその投手が降板する。

3 申告敬遠(インターミディエイト部門では認められない。)

投球前に守備側チームから球審に対し打者に「申告敬遠」を与えることが伝えられた場合とする。

- 1) その指示は守備側チーム監督からなされなければならない。
- 2) ボールデッドとなり、投手の投球数は「4球」加算される。
- 3) 打者が打席に入っているどのタイミングでも球審に対し「申告敬遠」を選択できる。

4 公式投球数記録員として競技部員または控え審判員が担当する。

5 投手の投球が投球限度に達したとき、公式投球数記録員は球審に通知する。

6 手はボールをユニフォームで拭くことを禁止する。

7 投手がグラブ内にバッティンググローブを着用することを認めない。

8 すでに試合に出場している投手がイニングの初めに準備投球のために投手板を踏んだときは、そのイニングの第1打者がアウトになるか、あるいは一塁に達するまで、投球する義務がある。ただし、その打者に代打者が出た場合、またその投手が負傷または病気のために、投球が不可能になったと球審が認めた場合を除く。

全日本選手権北関東連盟大会 (リトル・インターミディエイト大会)適用

1 投球数と登板間隔

- 1) リトル部門：降板した投手はその試合では投手に戻れない。

インターミディエイト部門：投手は一度降板し他のポジションに移っても、控え選手と交代しなければ、その試合で一度だけ再登板出来る。但し、同一イニング中に更に違うポジションに移動できない。

投手の投球数と休息日について、休息日が必要となる投球数は『その投手が対峙した最終打者へ投じた1球目の投球数が基準』となる。

例えば、投手が累計投球数18球となっている段階で次打者と対峙し、その打者に対し6球を投じて合計投球数が24球になった場合、①その打者が出塁する、②その打者がアウトになる、③第三アウトが成立し、そのイニングが終了する、④その打者が打席を完了する前にその投手が降板する、のいずれかのケースで降板すれば記録上は、その投手の投球数は「20球以内」とカウントされる。

これは休息日数が変わる35球、50球、65球のそれぞれの上限投球数でも同様の対応です。

- 2) 投手が、1日及び1試合に投球できるのは13歳95球、12から11歳85球、10歳以下は75球までとする。
- 3) 1試合に1球でも投球した投手は、その日に投球してはならない。
- 4) いかなる場合でも、投手は一日に1試合しか投球できない。また、いかなる状況下でも、投手は3日間連続して投球してはならない。
- 5) 41球以上の投球を行った投手はその日は捕手を務めてはならない。
- ① 打者に対している間に投球数が40球に到達した場合、次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すればその投手はその後捕手となれる。
- 6) 1試合に4イニング以上捕手を務めた選手はその日投手になれない。
- イニング数はプレイがかかった時点でカウントされる。
- ① 4イニングはアウト数12ではなく、守備についたイニング数とする。
- ② この4イニングは1試合での数であり、2試合行った場合の合計のイニングではなく、それぞれの試合でのイニング数である。
- ③ 試合で3イニング以内捕手を務めた選手が投手に交代し、同日21球以上投げた場合は、その日は再度捕手に交代してはならない。
- 例外：投手が打者と対戦中に投球制限の20球に達した場合
- (ア) その打者が出塁する。
- (イ) その打者がアウトになる。
- (ウ) 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する。
- (エ) その打者が打席を完了する前にその投手が降板する。
- 7) 休息日は、1日に66球以上投球したときは、4日間、51～65球 3日間
36～50球 2日間・21～35球 1日間・1～20球 必要なし

以下、上項2～8項と同様。

VI 試合の準備

- 1 監督は試合開始予定時刻の1時間前迄に到着し、本部に登録書を提出する。
- 2 ベンチは組合せ番号の若いチームを一塁側とする。但し、進行状況により変更する場合がある。
- 3 試合前に選手・監督・コーチ及び用具のチェックを行う。
2 試合目以降は、前の試合の4回終了後(試合進行や天候により変更もある)に行うため、進行状況に注意し、本部近くで待機すること。
- 4 攻守は主将により、試合当日決定する。
- 5 シートノックは後攻より7分間とするが、都合でカットする場合もある。
- 6 シートノック時に限り背番号なしのユニフォームで3人まで自チームの補助係として認める。
試合中ベンチ入りはできない。
- 7 試合前のブルペンでの投球練習を監督及びコーチが傍らで見ても良い。

VII 試合の運営

- 1 トーナメント試合における延長戦は7回までとし、決着がつかない場合、8回以降はタイブレーク制を採用する。
(インターミディエットは、9回よりタイブレーク制を採用する。)
 - 1) 攻撃は無死二塁から始める。
 - 2) 走者は前回最終のバッター、打者は前回終了時より継続。
 - 3) 投手は前回に登板していた投手が、投手規定に従って引き続き投げることができる。
 - 4) 以降は前イニング終了時のオーダー表継続打順とし、走者は継続打順の前の打者を二塁走者とする。
注意) マイナー大会は、延長戦は行わない。同点の場合は、7回以降より同方法にてタイブレークを採用。
- 2 1 試合の投手の数に制限はない。
- 3 次の場合、打者は走者となる。(いわゆる振り逃げ)
 - 1) 捕手が第3ストライクと宣告された投球を捕らえられなかった場合、打者は走者となる。
 - ① 走者が一塁にいないとき。
 - ② 走者がいても2アウトのとき。
注1) 第3ストライクと宣告されただけで、まだアウトになっていない打者が、気がつかずに、一塁へ向かおうとしなかった場合、その打者はダートサークル(ホームプレートを囲む土の部分)を出たらただちにアウトが宣告される。
注2) マイナー大会では振り逃げ規則は適用しない。
- 4 リーグ戦規定
試合は6イニングまでとし延長はない、コールドゲーム規定を適用する。(インターミディエット部門は7回)
 - 1) 順位の決定
 - ① 勝ち点が多い(勝1点、引き分け0.5点、負0点)
 - ② 対戦相手の勝者(2チーム同点の場合)
 - ③ 同点の場合勝ち数が多い
 - ④ 失点が少ない
 - ⑤ 得点が多い(なお、得失点の多少は当該対戦相手に限る。)上記で順位が決しないとき、全試合の失点数、次に得点数で決定する。

5 トーナメント方式リーグ戦(3リーグ・2リーグ戦)

引き分けなしで決着をつける。その場合7回よりタイブレーク制を採用する。

インターミディエイト部門は8回よりタイブレーク制を採用する。

6 コールドゲーム規定

- 1) リトル部門は3回終了時または3回裏の攻撃中15点差。4回終了時または4回裏の攻撃中10点差。(北関東連盟大会では、5回裏の攻撃中7点差を追加する事がある。)
- 2) インターミディエイト部門は4回終了時または4回裏の攻撃中15点差。5回終了時または5回裏の攻撃中10点差。(北関東連盟大会では、6回裏の攻撃中7点差を追加する事がある。)
- 3) 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム(一時停止試合)とする。
この場合全ての記録は有効となる。
- 4) 試合成立(4回完了、または4回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点：インターミディエイト部門では5回)後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。
- 5) 試合成立後に続行不能となったが、同点で勝ちが決められない場合はサスペンデッドゲームとする。
- 6) 試合成立後にインニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも、先攻チームがその表の攻撃で同点とするか、リードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や、後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。
- 7) サスペンデッドゲームはすでに終了したインニング数に関係なく、正確に一時停止された状況から試合を再開しなければならない。
- 8) サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までに20球以下の投球数の投手は、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。
- 9) 中断までの投球数が21～40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。
- 10) 41球以上投げた投手は、規定の休息日が必要となる。

7 ダブルヘッダー試合

1日2試合の試合は、7日間で3日間出来ない。(インターミディエイト部門は除く)

8 指導者(監督、コーチ)に関する事項

- 1) 試合開始、終了の挨拶のときに監督は、選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。
- 2) ベースコーチに指導者を認める。但し、ベンチに指導者1名がいること。
- 3) インニング中はコーチスボックスの移動、出入りは認めない。
- 4) インニング中はコーチスボックス内の指導者の変更は認めない。
- 5) 指導者がコーチスボックスに入らなくてもよい。
- 6) 指導者はコーチスボックスにとどまること
- 7) 任務
 - ① 打者及び走者への指示に限る。
 - ② なお、コーチスボックスから出て打者及び塁上の走者に指示した場合は、攻撃側のタイムの数に数える。
- 8) ペナルティー
 - ① 相手選手に対し威圧的な言動があった場合、1回目はベンチに戻す。
 - ② なお、当該者は、その試合中コーチスボックスに入れない。
 - ③ 2回目は監督の退場とする。

9) メンバー交換後、ベンチ内の監督はノック・アピール・選手交代・作戦タイム・ベースコーチ・ブルペンでのウォームアップを見るとき以外、ベンチを離れることは出来ない。

コーチはノック、ベースコーチ、作戦タイム、ブルペンでのウォームアップを見るとき以外、ベンチを離れることは出来ない。ブルペンのある球場での使用（投球練習）を認める。

10) 作戦タイム

守備側の作戦タイムでベンチを出る回数は1 イニング中1 回まで、2 回目で投手交代。

2 イニング以上で2 回まで、3 回目で投手交代とする。投手交代後は新たに数える。

監督・コーチが投手に指示する場合は、マウンドで行うこと。このときに捕手及び内野手が集合してもよい。

監督・コーチおよび選手はスピーディーに行動すること。

攻撃側の作戦タイムでベンチを出る回数は、1 イニング1 回である。

なお、守備側がタイムを取ったときに、攻撃側の監督およびコーチが選手に指示する場合は回数に数えない。但し、守備側タイムの時間内とする。

11) 携帯電話および通信機器(PC、モバイル PC、Pad 等)の持込み、コーチスボックスの選手・スタッフのコールドスプレー持参禁止。

12) グラウンド内（ベンチを含む）は禁煙(電子タバコを含む)である。受動喫煙の防止の為、喫煙場所以外での喫煙を認めない。

13) 試合終了後、監督は本部席にて投手の投球数の確認およびサイン(印)を投手ローテーション表にする。

9 選手に関する事項

1) ハーフスイングは選手からのリクエストを認める。

2) 試合中に内野手がマウンドに集まることは規制しない。ただし、試合の流れや頻度に応じて、審判員が認めない場合もある。

3) 投手のウォーミングアップ時に、打者などが打者席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。

4) 走者やベースコーチなどが、捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。もしこのような疑いがあるとき、審判員（控え審判員を含む）は攻撃側監督にペナルティー（退場等）を科す。

5) 走者、または打者走者がラフプレーをしたと審判員（控え審判員を含む）が認めたとき攻撃側監督にペナルティー（退場等）を科す。

6) ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」のジェスチャーとコールをする行為を禁止する。又コーチスボックスを出てはいけない。

7) 臨時代走

① 打者及び走者が、事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。

② なお、臨時代走者は投手と捕手を除く打者のいちばん遠い選手とする。

③ 攻撃が終っても前記の選手が速やかに出場出来ない場合は、選手交代となる。

④ 頭部に投球または送球を受けたときには、必ず臨時代走を出すこと。

8) 走者がヘッドスライディングをした場合はアウトになり、ボールデッドになる。(リトル、マイナー部門のみ採用。)

9) 不正投球(ボーク)が発生した時は走者を進塁させず、投球しない場合でもボールを宣告し投球数に加算する。(リトル、マイナー部門のみ採用。)

10) 控え選手は、プレイが継続している場合はグラウンドに入る事は出来ない。

10 連合チームルール

1) 連合チームの編成を希望するリーグは大会毎に「連合チーム登録申請」を連盟理事長に提出し承認を得なければならない。

2) 連合を組むリーグは本年度のリーグ登録と各カテゴリーのチーム数を国際登録していなければならない。

- 3) 有資格選手数が9名以上のリーグは連合を編成してはならない。(連盟が認めた場合はその限りではない。)
- 4) 連合の編成は、エリア内での編成を優先し、エリア内編成不可の場合は他エリアリーグとの編成を認める。
エリアを超えての調整はエリア長間で進め、理事長・日本協会の承認を得ること。
MLBの連合に関しては3リーグまで可能。
- 5) 各大会エントリー締め切りまでに承認を得る事とする。
- 6) 全日本選手権インターミディエイト部門においては、最大隣接する3リーグまでの連合編成を認める。
- 7) 全日本選手権リトル部門の連合編成は認められない。

VIII 監督、コーチ、選手の退場

- 1 次の場合、大会本部及び審判員は、監督、コーチ、選手を退場させる。
 - 1) 自軍のベンチ及び応援席の中から、相手リーグまたは審判員に対し、暴力または暴言をはいた場合、監督及び当該者を退場させる。
 - 2) 審判員の判定及び指示に従わなかった場合、監督及び当該者を退場させる。
 - 3) 退場のペナルティーをうけた監督またはコーチは連盟より相当日数出場停止の処分をうける。
 - 4) VII-9-4)項およびX-18項の行為を審判員が見つけた場合攻撃側監督と該当者はその試合から退場となる。
 - ① 打者は安打、守備側失策等で塁に出た場合は打撃を取り消し、打ち直しとする。
 - ② 打者が打撃を行いアウトになった場合は、アウトを有効とする。
 - ③ この時に走者が進塁した場合(犠打等)は、打撃前の投手が投球当時の占有塁へ全ての走者を戻す。

IX スピードアップ

- 1 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
- 2 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
- 3 捕手はホームベースより前に出ないで野手に声をかける。
- 4 内野手はボール回しを定位置で行う。
- 5 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に送球する。
- 6 打者は打者席を外さずに、ベンチのサインを見る。
- 7 ベンチからのサインは短くする。
- 8 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走ること。
- 9 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

X 補則

- 1 全てのリトルリーグ関係者は開幕式、各種大会の際、IDカードを着用すること。
- 2 連合リーグによる参加可能大会においては、理事会了承後、理事長・日本協会の承認を得て可能となる。
- 3 大会シードについて原則下記とするが、参加リーグ数によってはこの限りではない。
 - 1) 春季大会マイナー部門『KEIO CUP』北関東連盟大会
前年度秋季マイナー大会の優勝、準優勝チームはシードとする。

- 2) 春季大会ティーボール部門 第 38 回『武蔵コーポレーション杯』
冬季大会ティーボール部門 北関東連盟大会の優勝・準優勝、3 位（2 チーム）は
シードとする。
- 3) メジャー部門 文部科学大臣杯 JA 共済トーナメント
第 56 回全日本リトルリーグ選手権北関東連盟大会
冬季メジャー部門『理事長杯』北関東連盟大会の優勝、準優勝チームはシードとする。
- 4) マイナー部門『A I G プレゼンツ M L B カップ 2022』北関東連盟大会
春季大会マイナー部門『KEIO CUP』北関東連盟大会の優勝、準優勝チームはシードとする。
- 5) 冬季大会インターミディエット部門『サイキョウ・ファーマ杯』（仮称）北関東連盟大会
前年の秋季大会インターミディエット部門『サイキョウ・ファーマ杯』（仮称）北関東連盟大会
の優勝・準優勝チームはシードとする。
- 6) 冬季大会メジャー部門『理事長杯』北関東連盟大会
前年の秋季メジャー部門 北関東連盟大会の優勝・準優勝チームはシードとする。
- 7) インターミディエット部門 JA 共済杯『サンケイスポーツ杯』全日本インターミディエット北関東連盟大会
冬季大会インターミディエット部門『サイキョウ・ファーマ杯』（仮称）北関東連盟大会
の優勝・準優勝チームはシードとする。
- 8) 上記該当大会以外はシードを設けない。

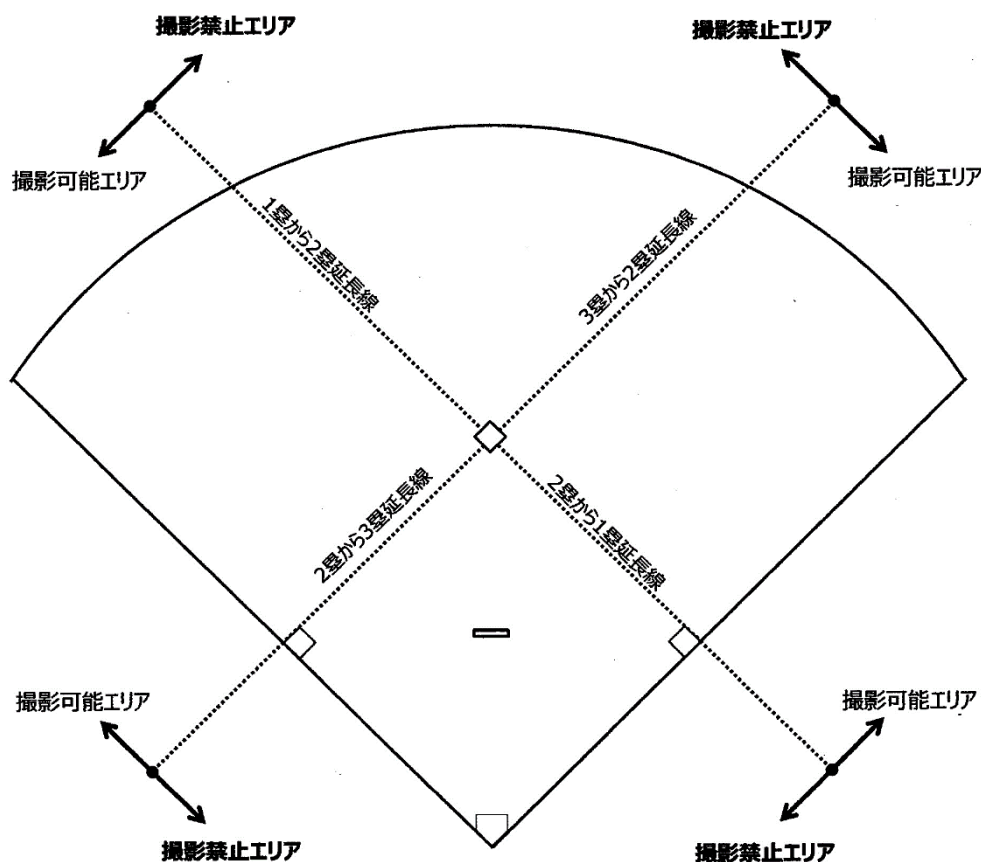
4 ベンチ内のプレイについて

- 1) 常設の正規の球場は規則どおりとする。
- 2) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。
- 5 選手からのハーフスイングのリクエストを受ける。
- 6 全選手がファールラインを越えたときに、アピール権は消滅する。
- 7 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外へ出ても
アウトである。但し、場外で選手が倒れた場合もボールデッドとなり、走者に 1 個の進塁を認める。
- 8 監督、コーチがベンチからグラウンド、コーチスボックスに入るときは、グラウンドコートを脱ぐこと。
- 9 ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。グラウンド内でのダンス等は禁止する。
- 10 指導者および選手共に携帯電話および通信機器(PC、モバイル PC、Pad 等)の持ち込み、コーチボックスの
コールドスプレー持参を禁止する。
- 11 大人のベースコーチもヘルメット着用が望ましい。
- 12 出場全選手に対して、胸部保護パッド着用を義務付ける。着用していない選手は試合に出場できない。
- 13 メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。
- 14 打者はバッタースボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバッタースボックス内にとどめて
おかなければならない。
- 15 禁煙に協力願います。(電子タバコも含みます)受動喫煙防止の為、グラウンド内はもとより、バックネット裏
本部席、ベンチ裏、応援席、は全て禁煙とし、その旨分かりやすい場所に大きく表示願います。各リーグの練習場所、
球場への移動等選手と行動を共にする全ての場所を対象と上記の場所から離れ、選手たちから最も離れた場所に
喫煙場所を設けてください。
- 16 リトル、マイナー部門ではグラウンド内でのネクストバッタースサークルは作らない。安全な場所に素振りゾーンを
設営する。(グラウンドにより設営できない場合もある。)
- 17 コーチスボックスはファールラインから 3 m 以上離すことが望ましい。

- 1 8 ネット裏または観客席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
- 1 9 「関東四連盟、関東選手権大会規則」「東日本選手権大会規則」は別に定める。
- 2 0 試合中の撮影禁止エリア
 - ① 内野側：2 塁ベースから 1 塁ベース及び 3 塁ベースの延長線上のホームベース側の範囲は、撮影出来ない。
 - ② 外野側：1 塁ベースから 2 塁ベースの延長線上及び 3 塁ベースから 2 塁ベースの延長線上の間の範囲は、撮影出来ない。
- 2 1 試合中の禁止事項：試合進行の協力をして頂いている方の、試合中の応援行為は出来ない。
(アナウンス担当、ベンチ付き添い担当、スコア板のスコア更新担当 等)
- 2 2 試合後の禁止事項：試合中のビデオ撮影動画をみて試合中及び試合後に、審判の判定及びプレイの内容に関して意見を言う事は出来ない。
- 2 3 グラウンド提供について：メジャーの場合は規格を満たしたグラウンドとする。
 - ① 主管エリア長は、年初に大会初日のグラウンドをエリアにて決定する。提供グラウンドが足りない場合は、主管エリア長が他エリアに協力依頼し決定する。
 - ② 2 日目は、初日提供リーググラウンドを優先して使用する。希望が重複した場合は抽選とする。
 - ③ 3 日目以降は上記②と同様とする。
 - ④ 上記①から③に該当がない場合は、提供希望リーグのグラウンドとする。希望が重複した場合は抽選とする。
 - ⑤ グラウンド提供がない場合は、主管エリアが責任をもって提供する事。

以上

撮影エリア



リトルリーグ特別ルール

7. 13 離 塁 規 定

投手が投手板に触れてボールを持ち、捕手がキャッチャースボックスに位置して捕球態勢に入っているときは、塁上の走者は投手の投げたボールが打者に達するまでは、塁を離れてはならない。

一人の走者の違反は、他の総ての走者に影響を及ぼす。

- A. 投球が打者に達する前に塁上の走者が離塁し、打者が打たなかった場合は、走者は行動を続けることが出来る。その走者に対しプレイが行われ、アウトになればそのアウトは有効である。走者が目指している塁に安全に達したならば、その走者は投球前に占有していた塁に戻らなければならない。この場合はアウトにはならない。
- B. 投球が打者に達する前に塁上の走者が離塁し、打者が打った場合は、その走者及び他の塁上の各走者は行動を続けることが出来る。その走者または他の走者に対しプレイが行われ、アウトになれば、そのアウトは有効である。アウトにならなければ、その走者または他の走者は元の塁に戻るか、元の塁に最も近くて空いている塁に戻らなければならない。いずれの場合でも、打者は単打または失策では一塁まで、二塁打では二塁まで、三塁打では三塁までしか進塁はできない。球審が塁打を決定する。
- C. 投球が打者に達する前に塁上の走者の誰かが離塁し、打者がバントか内野安打を打った場合は、得点は認められない。走者満塁のとき、打者が一塁に安全に到達すれば、三塁走者を除く各走者は、投球前に占有していた塁から進塁する。三塁走者は三塁から除かれ、得点は許されない。

注、以下の例を参照のこと

- 例 1. 一塁走者の離塁が早すぎたが、打者が一塁に安全に達した場合は、走者は二塁に進塁する。
- 例 2. 二塁走者の離塁が早すぎたが、打者が一塁に安全に達した場合は、走者は二塁に戻る。
- 例 3. 三塁走者の離塁が早すぎたが、打者が一塁に安全に達した場合は、走者は三塁に戻る。
- 例 4. 一塁走者の離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、走者は三塁まで進塁する。
- 例 5. 二塁走者の離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、走者は三塁まで進塁する。
- 例 6. 三塁走者の離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、走者は三塁に戻る。
- 例 7. どの塁の走者の離塁が早すぎても、打者が三塁打か本塁打を打った場合は、全塁の走者は得点を許される。
- 例 8. 一塁および二塁走者の何れかの離塁が早すぎたが、打者が一塁に安全に達した場合は、それぞれ二塁および三塁に進塁する。
- 例 9. 一塁および二塁走者の何れかの離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、一塁走者は三塁へ進み、二塁走者は得点を許される。
- 例 10. 一塁および三塁走者の何れかの離塁が早すぎたが、打者が一塁に安全に達した場合は、一塁走者は二塁へ進み、三塁走者は三塁にとどまる。
- 例 11. 一塁および三塁走者の何れかの離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、一塁走者は三塁へ進み、三塁走者は得点を許される。
- 例 12. 二塁および三塁走者の何れかの走者の離塁が早く、打者が一塁に安全に達した場合、進塁は できない。

例 13.二塁および三塁走者の何れかの走者の離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、二塁走者は三塁へ進み、三塁走者は得点を許される。

例 14.満塁のとき、何れかの走者の離塁が早すぎたが、打者が二塁打を打った場合は、一塁走者は三塁へ進み、二塁および三塁走者は得点を許される。

例 15.満塁のとき、何れかの走者の離塁が早すぎたが、打者が内野へバントまたは打撃により安全に一塁に達した場合は、三塁走者を除く全走者は一個の進塁ができる。三塁走者は除かれ、得点は あげられないがアウトにもならない。プレイ中、何れかの塁上でアウトがあり空塁が生じた場合は、三塁走者は三塁に戻り、他の走者は元の塁に戻るか、元の塁に最も近い、空いている塁に戻る

例 16.満塁のとき、何れかの走者の離塁が早すぎたが、打者が四球または死球を受けた場合は、各走者は一個進塁し、得点を許される。

注 1 審判員が走者の離塁が早すぎることに気がついた場合は、直ちに合図の旗かハンカチを落として、違反を指摘しなければならない。

注 2 以上例示したとおり、打者走者は最後に安全に獲得した塁にとどまることを前提としている。

注 3 ティーボールでは、走者は、打者がボールを打つまで占有している塁に触れていなければならない。

走者の離塁が早い場合の日本での処置方法

1. 投球が打者に達する前に走者が離塁すれば、審判員は赤いハンカチを落とす。
2. 一人の走者の違反は全走者に及ぶ。
3. 違反した走者がアウトになっても、ペナルティーは消えない。
4. 走者の離塁が早いときに打者が打てば、打者の打ち直しはない。
5. 打者は塁打の数だけ進塁する。
6. 走者は戻る塁があれば戻る。
7. 満塁のときは、打者が内野に打って一塁に生き、いずれの走者もアウトにならないときは、得点を認めずプレイをそのまま続ける。三塁走者は「消滅」として扱う。なお、外野に打球が飛んだときには、得点を認めそのままプレイを続ける。
8. 走者を戻すときは「タイム」をとり、全走者に指示する。
9. 処置方法の番号の若い方を優先する。

以上

全員出場ルール

全日本選手権北関東連盟大会(リトル・インターミディエット)適用

I 全員出場義務

- 1 試合当日ベンチ入りした選手は全員試合に出場しなければならない。
 - 1) 1 3 名以上の選手が試合に参加している場合、当日の名簿上の全選手が、攻撃において少なくとも 1 打席は試合に参加しなければならない。
 - 2) 1 2 名以下の選手で試合に参加している場合は、当日の名簿上の全選手が、守備において最低 6 つの連続したアウトと、攻撃において少なくとも 1 打席は試合に参加しなければならない。
 - 3) この規則でいう「守備において連続する 6 アウト」とは、選手が 9 箇所のいずれか守備位置についた状態で 6 アウトをとることをさす。
 - 4) 走者に対する全員出場義務を満たす前に交代した選手は、不適格な交代を行った選手とみなされる。但し、事故等で臨時代走が起用された場合を除く。
 - 5) 「攻撃において最低で 1 打席」とは、選手が ノーカウントから打席に立ち、その打者が凡退するか、打者走としてアウトになるか、出塁した場合は、得点するかそのイニングまたは試合が終了することをさす。
- 2 監督は本規定を満たすことに責任を持たなければならない。この規則による全員出場義務規定を満たさないことは抗議の基礎となる。メンバー表に記載された選手の一人以上がこの条件を満たさず 抗議されるか大会本部に伝えられた場合、監督は退場となり、残りの試合からも解任され、交代することもできない。更なるペナルティーもある。
- 3 すべてのコールドゲームに全員出場義務は適用しない。

II 選手交代／再出場

- 1 負傷して退場した選手は出場条件を満たさなくても良い。
- 2 選手の病気、負傷、退場で 9 人の選手を揃えられなくなった場合は、控え選手の中から交代選手を指名する。ただし、その人選は相手チームの監督が行うものとする。退場になった選手はこの再出場の対象とはできない。
- 3 先発選手は 1 打席（13 名以上）または 1 打席・連続 6 アウト（12 名以下）の守備をしなくても何回でも交代できる。
但し、1 打席または 1 打席・連続 6 アウトを完了しないかぎり全員出場ルールを満たしたことはない。
- 4 選手交代で退いた選手は、元の打順で再出場することになる。
- 5 交代で初めて試合に出場した選手は、全員出場義務を完了するまで交代できない。
- 6 投手が全員出場義務を完了しており、打者の時に交代選手が出場した場合、実際に降板したのであれば一度に限り投手として再出場できる。
- 7 全選手が再出場できる。また再出場回数に制限は設けない。（全選手が何回でも再出場できる。）

III スペシャルピンチランナー

- 1 1 イニングに 1 回、1 試合に 2 回に限り、攻撃側選手に対してその時点で打撃順に加わっていない選手を使用してスペシャルピンチランナーを起用することが出来る。
- 2 スペシャルピンチランナーは 1 人の選手に対して 1 回のみ使用できる。
- 3 スペシャルピンチランナーに交代された選手はラインナップから外れるわけではない。
- 4 スペシャルピンチランナーがそのまま残った場合は選手交代されたものとみなされ、打撃順に入っている間は

スペシャルピンチランナーとして起用できない。

- 5 4)で打撃順に入った選手がさらにほかの選手と交代した場合やその他の打撃順に入っていない選手は再度スペシャルピンチランナーに起用することができる。

(例：初回に3番打者が四球で出塁し、スペシャルピンチランナーと交代した。3回にも四球で出塁したが、初回に1度交代しているため、その試合中はスペシャルピンチランナーとの交代はできない。)

【注釈】

全員出場規定違反は悪質なものでない限り試合の勝敗に影響を与えず、監督に対するペナルティーが科されることになりました。そのため、より防止効果を高める狙いで 試合終了後においてもアピールを認めることになりました。このアピール権は対戦相手の監督のみならず、競技役員にも与えられています。試合関係者全員で違反を予防しようという意図によるものです。

リトルリーグ関東四連盟 関東選手権大会規則

2022年2月改定
リトルリーグ関東四連盟連絡協議会

I 大会規則

2022年リトルリーグ公認競技規則、トーナメント規則およびガイドライン、本大会特別規則並びに公認野球規則を準用する。

II 登録

1. 選手登録は、リトルリーグ年齢 10 歳・11 歳・12 歳の男女とする。（4 月～8 月生まれの 13 歳の選手を認める）
秋季大会は、学年を採用して、小学 6 年・5 年に限定する。
マイナー選手権大会は、学年を採用して、小学 4 年・3 年に限定する。
各連盟で承認された混成チームを認め、全て「連合リーグ」と称する。
選手は 9 名以上 20 名までの連番とする。指導者は監督 1 名コーチ 2 名以内の成人とする。
2. 登録は、各連盟規定の用紙を使用し、当該連盟の承認を受け大会本部に提出する。

III 服装

1. 選手は全員統一した服装を着用し、ユニフォームの胸にリーグ名の表示のあるものに限る。
なお、白のアンダーシャツは認めない。
連合リーグは統一することが望ましいが、自リーグのユニフォームでもよい。ただし、背番号は「1」からの連番とする。
2. 監督・コーチの上着は、白の襟付きシャツ、スラックス（ズボン）は下記のとおりとする。
 - (1) 監督、コーチは(2)項以下、同一の服装であること。ズボンはベルト有無も統一のこと。
 - (2) 白、黒、紺、茶、灰、ベージュ各色系を可とする。
 - (3) 華美な色は不可。
 - (4) 全体が単一色であること。（別色のライン等があるものは不可）
 - (5) チノパンは可。
 - (6) ジーンズは不可。
 - (7) ショートパンツは可とする。
ショートパンツの色とショートパンツ着用時の靴下（ハイソックス、短いソックス両方可）の色は、上記「(2)項」に順ずるものとする。
 - (8) リトルリーグの指導者として節度ある常識的な服装であること。
 - (9) 靴とベルトは別色になっても良いが、監督、コーチ同志は同色の組合せのこと。
3. 監督・コーチの帽子は、選手と同じものまたは白で統一したものを着用する。

IV 用具

1. 捕手は試合および練習中も公認のヘルメット（耳カバー付）、プロテクター（ロングタイプまたはショートタイプも可）、マスク（スロットガードのどあて付）、ファウルカップを着用しなければならない。
2. 非木製バットは、U S A Bat 規格に合致したものでなければならない。（規則 1.10 参照）
3. 瑕疵、変形等があるバットの使用は不可。審判員がそれらを確認する。
4. バットリング、マスケットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持ち込みを禁止する。
5. 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。ただし、派手なものは好ましくない。なお、投手は使用出来ない。
6. サングラスの使用は指導者、選手が必要なときは大会本部または審判員が確認して許可する。
色の制限は特に定めないが、ミラーグラス（反射するもの）とメガネ枠が白色のものは認めない。

7. ヘルメットの顎ひもをきちんと着用することが望ましい。また、フェイスガード付き、Cフラップ付きヘルメットの使用を認める。
8. グラブのひもは、必要以上に長いものは認めない。
9. 投手のグラブについては、縁取り、しめひも、縫い糸を除くグラブ本体（捕球面、背面、網）は白色、灰色以外の1色でなければならない。
10. 出場選手全員に胸部保護パッドの着用を義務付ける。

V 試合の準備

1. ベンチは組合せ番号の若い番号を一塁側とする。
2. 攻守は主将により、試合当日決定する。
3. シートノックは後攻より7分間とするが、場合によってはカットする場合もある。
4. 試合前のノックの際、登録選手が不足の場合3名まで補助を認める。
5. 試合前のブルペンでの投球練習を監督・コーチが傍らで見ても良い。

VI 試合の運営

1. 延長戦は7回までとし、7回で決着しない場合は8回表以降からタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。

（1）攻撃側は無死二塁から始める。

（2）打者は7回終了時の継続打順としその回に一番後に打順が回ってくる選手が2塁走者となる。

例：5番打者がその回の先頭打者なら4番の打順の選手が2塁走者となる。ルール上適格な代走を走者として出場させることもできる。

（3）投手は7回に登板していた投手が、投手規定に従って引き続き投げる。

【注】マイナー大会は6回制とし延長戦は行わない。同点の場合は7回より同方法にてタイブレーク制を採用する。

2. 全試合、3回15点差または4回以降10点差によるコールドゲームを採用する。

3. 振り逃げ

次の場合、打者は走者となる。

（A）走者が一塁にいないとき、（B）走者が一塁にいても二死のとき、

捕手が第三ストライクと宣告された投球を捕らえなかった場合。

【注1】第三ストライクと宣告されただけで、まだアウトになっていない打者が、気がつかずに、一塁へ向かおうとしなかった場合、その打者は“ホームプレートを囲む土の部分”を出たらただちにアウトが宣告される。

【注2】マイナー大会では振り逃げ規則は適用しない。

4. ベースコーチは次の条件を満たしていなければならない。

（1）自チームのユニフォームを着た有資格の選手と監督、コーチが務めることができる。

（2）2人の大人のベースコーチが許される。ただし、ベンチに監督またはコーチが他に1人いる場合のみ、監督、コーチが務めることができる。

（3）大人のベースコーチもヘルメット着用が望ましい。その場合、できる限りチームと同じものとする。

（4）ベースコーチは自チームの打者、走者のみに指示することができる。

（5）ベースコーチは同一イニング中、ボックスの移動はできない。

（6）コーチスボックスから出て自チーム打者および塁上の走者に指示した場合は攻撃側のタイム数に数える。

（7）相手に対しスポーツマンシップに反する言動があった場合、1回目はベンチに戻す。当該者はその試合中コーチスボックスに入れない。2回目は監督が直ちに退場となる。

5. ベンチ内の監督およびコーチは、みだりにベンチを離れることはできない。

6. 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は1イニング1回である。

なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督、コーチが選手に指示する場合は回数に数えない。

ただし、守備側の指示より長い時間は認めない。

7. 監督、コーチが、1 イニングに同一投手のもとへ1度行くことができるが、2度目にはその選手は投手から退かなければならない。また1試合に同一投手のもとへ2度行くことができるが、3度目にはその選手は投手から退かなければならない。監督、コーチが指示する場合は、マウンドで行うこと。この時に捕手および内野手が集合しても良い。監督、コーチおよび選手はスピーディーに行動すること。
8. 試合中に野手がマウンドに集まることは規制しない。
ただし、試合の流れや頻度に応じて審判員が認めない場合もある。
9. 投手のウォームアップ時に、打者などが打席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
10. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
もしこのような疑いがあるとき審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え止めさせる。
11. ネット裏または観客席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
12. ベースコーチなどが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」にジェスチャーとコールをする行為を禁止する。
13. 臨時代走
（1）打者および走者が、事故等で走者になれない場合、臨時代走を認める。
なお、代走者は投手と捕手を除く打順の一番遠い選手とする。
（2）攻撃が終わっても前記の選手が速やかに出場出来ない場合は、選手交代となる。
（3）頭部に投球および送球を受けた時には、必ず臨時代走を出すこと。
14. 走者がヘッドスライディングをした場合はアウトになる。
15. 不正投球が発生した時は走者を進塁させず、投球しない場合もボールを宣告して投球数に加算する。
16. 試合開始、終了の挨拶の時に監督は選手と一緒に整列する。コーチはベンチ前に整列する。

VII 監督・コーチの退場

1. 次の場合、大会本部および審判員は監督、コーチ、選手を退場させる。
- （1）自軍のベンチおよび応援席の中から、相手リーグおよび審判員に対し暴力、暴言を吐いた場合、監督および当該者を退場させる。
- （2）審判員の判定および指示に従わない場合、監督および当該者を退場させる。
- （3）Ⅵの9、10で、同様の行為を再度審判員が見つけた時は
- ① 攻撃側監督と当該者はその試合から退場となる。
- ② 打者は安打、守備側失策等で塁へ出た場合は打撃を取り消し、打ち直しとする。
- ③ 打者が打撃を行いアウトになった場合は、アウトを有効とする。
- この時に走者が進塁した場合（犠打等）は打撃前の投手が投球当時の占有塁へ全ての走者を戻す。

VIII 降雨、日没、時間制限等で試合続行不能となった時

1. 正式試合が成立する前に続行不能となった場合は、サスペンデッドゲーム（一時停止試合）とする。
この場合全ての記録は有効となる。
2. 試合成立（4回完了または4回表完了で後攻チームがリードしている、あるいは同点）後に続行不能となった場合、勝ちが決められる場合は試合終了とする。
3. 試合成立後に続行不能となったが、同点で勝ちが決められない場合は、サスペンデッドゲームとする。
4. 試合成立後にイニングの途中で続行不能となり、勝ちチームが決められる場合でも、先攻チームがその表の攻撃で同点とするかリードしており、後攻チームの攻撃が完了していない場合や後攻チームがリードを奪うことができないうちに中止となった場合は、当該試合は再開しなければならない。
5. サスペンデッドゲームとなり、その翌日に試合が再開された場合、中断時点で投手であり中断までに20球以下の投球数の投手は、続きの試合においてその投手の投球数はゼロからカウントする。
6. 中断までの投球数が21～40球の間であった場合、続きの試合においてその投手の投球数は中断された時点の投球数からカウントする。
7. 41球以上投げた投手は、1試合空けるか規定の休息日が必要となる。

IX 特記事項

1. 「全員出場義務の規則」と「スペシャルピンチランナー」は、採用しない。

2. 投手の規則

(1) 降板した投手はその試合では投手に戻れない。

(2) 投手は 1 日および 1 試合に投球できる投球数は下記とする。

リトル年齢区分	最大投球数
13 歳選手	95 球
11-12 歳選手	85 球
9-10 歳選手	75 球

(3) 投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合は、その打者が完了するか、または打席中に攻守交代となるまで続投できる。

(4) 投手が 1 試合に 20 球以下の投球をした場合は、次の試合に投手として出場できる。

ただし、同日の次の試合の投球数は最大投球数から前の試合の最終打者を完了した時点の累積投球数を減じたものとする。

(5) 投手が 21 球以上の投球数の場合は、1 試合空ければ登板は可能である。

なお、当日 2 試合に連続登板し、2 試合の合計投球数が 21 球以上になった場合は、1 試合空けなければならない。

または、以下の休息日をクリアしていれば連続した試合に登板できる。

1 日の投球数	休息日
66 球以上	4 日
51～65 球	3 日
36～50 球	2 日
21～35 球	1 日
20 球以下	不要

休息日はいずれも最終打者に対峙した時点での 1 球目の投球数が基準となる。

注：いかなる状況下でも、投手は 3 日間連続して投球してはならない。

(6) 投手が 41 球以上の投球をした場合、その日は捕手を務めてはならない。

注：投手が打者に対しての間に、投球数が 40 球に到達した場合、投手は以下のいずれかに至るまで投げ続けることができ、その日その後捕手としてプレイできる資格を有する。

1. その打者が出塁する。
2. その打者がアウトになる。
3. 第 3 アウトが成立し、そのインングが終了する。
4. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する。

投手は次の打者へ投球する前に降板するか試合が終了すれば、その投手はその後捕手としてプレイすることができる。

(7) 試合で 4 インング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。

注：4 インングはアウト数（12）ではなく、守備についたインング数である。

また、4 インングは 1 試合での数であり、2 試合行った場合は合計インング数ではなく、それぞれの試合でのインング数とする。

(8) 捕手を3イニング（以下も含む）務めた選手が投手に交代し、同日21球以上投げた場合、その日は再度捕手に交代してはならない。

例外：投手が打者と対戦している時に投球制限数の20球に到達した場合、以下の条件で投手は投球を続け、その後捕手への交代が可能である。

- a. その打者が出塁する。
- b. その打者がアウトになる。
- c. 第3アウトが成立し、そのイニングが終了する。
- d. その打者が打席を完了する前にその投手が降板する。

3. 申告敬遠

次の場合に、打者は走者となり、アウトになることなく安全に一塁に進める権利が与えられる。

（ただし、打者が一塁に進んで、それに触れることが条件となる）

1) 審判員が“四球”を宣告した場合

2) 守備側チームから球審に対し打者に“申告敬遠”を選択することの通知は、打者がバットースボックスに入る前でもバットースボックスに入っている時でも構わない。

注1：その通知は守備側チームの監督からなされなければならない。監督は“タイム”をかけ、タイムが認められたのちに打者に四球を与える旨を球審に伝えなければならない。

注2：ボールデッドとなり、塁上の走者は打者走者の四球により押し出される場合を除き進塁できない。

監督が申告敬遠を通知した時の打者が申告敬遠を完了するのに必要なカウントに基づき、投球数が与えられる。

× スピードアップ

1. 投手はボールを受けたら速やかに投手板に付いて捕手のサインを受ける。
2. 捕手は受けたボールを速やかに投手に返球して、投手にサインを送る。
3. 捕手はホームプレートより前に出ないで野手に声をかける。
4. 内野手はボール回しを定位置で行う。
5. 内野手は外野手からのボールを定位置から投手に送球する。
6. 打者は打者席を外さずにベンチのサインを見る。
7. ベンチからのサインは短くする。
8. 守備につくとき、ベンチに戻るときは必ず走る。
9. 審判員はスピーディーな試合を常に心がける。

×I 補貝リ

1. ベンチ内のプレイについて
 - (1) 常設の正規の球場は競技規則通りである。
 - (2) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。
2. 選手からのハーフスイングのリクエストを受ける。
3. 全選手がファウルラインを越えた時に、アピール権は消滅する。
4. 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。
なお、野手がボールデッド地域に倒れ込んだ場合は、ボールデッドとなり、走者に1個の進塁を認める。野手がボールデッド地域に踏み込んで倒れなかった場合はボールインプレーとなる。
5. ネクストバットースボックスは作らない。次打者はベンチ出入口付近に待機すること。
6. 監督・コーチがグラウンドに入るときは、コートを脱ぐこと。
7. ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。
8. 選手はユニフォームをきちんと着用すること。

9. グラウンド（ベンチを含む）内は禁煙である。
10. メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。
11. 携帯電話の持ち込み、コーチボックスの選手のコールドスプレー持参を禁止する。
12. 打者はバッタースボックスに入ったのちは、その打席が終了するまで少なくとも片足はバッタースボックス内にとどめておかなければならない。

例外：

- ① スイング時、スラップ（走りながらの打撃）時、あるいはスイング途中停止時
- ② 投球により打席から出ざるを得なくなった場合
- ③ 打者が“ドラッグバント”を試みた場合
- ④ 捕手が投球を捕球できなかった場合
- ⑤ 何らかのプレイが試みられた場合
- ⑥ タイムが宣告された場合
- ⑦ 投手がマウンド周りのダートエリア（土の部分）から外に出たり、投手が捕手から返球を受けたのちに投手板から5フィート（1.52m）以上離れたり、捕手がキャッチャースボックスの外に出た場合
- ⑧ スリーボール後の投球を打者がボールと判断したにもかかわらずストライクであった場合

ペナルティー：打者が例外状態にない場合にバッタースボックスを出た場合、審判員は打者に警告を与える。

警告後に再度バッタースボックスを出た場合、審判員はストライクをコールする。一人の打者に

何度でもこのコールはなされる。投球数にはカウントしない。ボールデッドとなるが、走者は進塁しない。

注：ストライクのコールが3ストライク目でない限り、打者はバッタースボックスに戻り新しいカウントから打撃を継続する。

以上

リトルリーグ関東四連盟 ティーボール関東親善大会規則

2022年4月改定
リトルリーグ関東四連盟連絡協議会

I 大会規則

2022年リトルリーグ公認競技規則、トーナメント規則およびガイドライン、本大会特別規則を準用する。

II 球場

1. 外野フェンスはホームベースより45メートルとする。
2. バッターサークルは半径3メートルとする。
3. ファウルラインは半径7メートルとする。
4. ピッチャーサークルは半径1メートルとする。
5. バッターボックスはホームベースの半分（21.6cm）捕手よりに移動する。
6. 捕手の守備位置は一塁・三塁のファウルライン延長線上のバッターサークルにポイントして指定する。
7. 一塁ベースはダブルベースを使用する。
8. その他はリトルリーググラウンドと同一とする。

III 登録

1. 選手は小学3年生以下とし、秋季大会からは2年生以下とする。
2. 選手登録数は、20名以下とする。受付時に各連盟制定の登録用紙を使用し大会本部に提出する。
3. 指導者は成人で監督1名・コーチ4名以内とする。
4. 複数リーグの混成チームも登録できる。

IV 服装

1. 監督・コーチ・選手の服装はスポーティーなものであれば自由とする。
2. 選手は重複しない背番号を付ける。
3. ベンチに入る者は、必ず野球帽を着用すること。

V 用具

1. 試合球はティーボール公認球（ゼット製）を使用する。
2. バットは、USA bat 規格に合致したもの、またはSGマークがあるものとする。また、大会本部が承認したバットも使用することが出来る。
3. 捕手の保護具はヘルメットのみを着用する。
4. 打者、走者はヘルメットを着用しなければならない。
5. 投手に野手と同様に手袋、リストバンドの使用を認める。

VI 試合の運営

1. 試合開始前に各連盟制定の打順表を本部席に提出する。
2. 試合はリーグ戦の場合6回または45分とし、同点の場合は引き分けとする。
また、トーナメント戦の場合も同様とするが、同点の場合はタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおりとする。
 - 1) 攻撃は無死二塁から始める
 - 2) 打者は終了時の継続打順とし、その回に一番後に打順が回ってくる選手が2塁走者となる。
3. シートノックは後攻より5分間以内とするが、都合でカットする場合もある。
4. コールドゲームは適用しない。

VII 競技方法

1. 攻守は3アウトまたは打者一巡（9名）で交代する。
2. 1イニングで9人目の打者のときはアウトカウントを2アウトとする。
3. 守備のときに外野に2人の指導者が入ることができる。

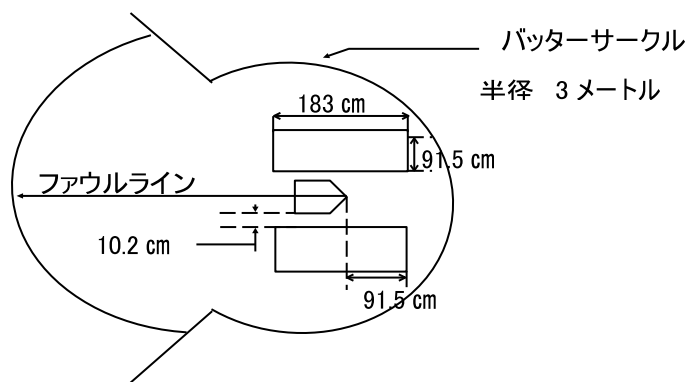
4. ベースコーチは2人とも指導者とする。
5. ティースタンドにボールをセットするのは球審が行う。
6. 攻撃側の監督またはコーチは球審の横にいて、ティーバーの調整、打者への指導をすることができる。
7. 投手は球審の「プレイ」の合図があったら速やかに、投球動作（偽投）を行う。また、打者は投手の投球動作終了後、直ちにボールを打たなければならない。
8. 投手は打者が打つまでは、ピッチャーサークルから出てはいけない。
9. 投手が投球姿勢に入ったら打者は軸足を移動してはいけない。
10. 打者はティースタンド上のボールを「フルスイング」で打つこと。
11. 三振は適用しない。
12. 走者は打者が打つまで離塁できない。（赤いハンカチルールを適用する）
13. タイムの回数に制限はないが常にスピードアップを心がけること。
14. ヘッドスライディングは進塁、帰塁方向ともにアウトになる。
15. 抗議は認められない。

VIII 審判上の注意

1. 外野に飛んだボールが内野内の野手に戻った時点でただちに審判員は「タイム」を宣告し「ボールデット」にする。
ただし、中継プレイ中の時や野手が捕球状態に無いときはプレイを続ける。
また、審判員の「タイム」宣告時に塁間にいた走者は占有した塁へ戻す。
2. 内野内の打球によるプレイは、プレイが連続しているか否かを見極めて「タイム」をとる。
3. 打球が7メートルのファウルラインを越えたとき、またはライン上るときは全てインプレイである。
また、ファウルラインに届かないゴロ・飛球は打ち直しになる。
1) このエリア内で飛球を捕球してもアウトにならない。
2) ファウルグラウンドも7メートルのラインがあるものとして扱う。
4. フルスイングしない打球はファウルボールとし、打ち直しとする。
5. フルスイングしてファウルラインを越えたゆるいゴロの打球もインプレイである。
6. インフィールドフライは適用しない。
7. 一塁のダブルベースは1つのベースとして扱う。従って野手および打者走者はどちらに触塁してもかまわない。ただし、打球の判定は、野手用ベース（インフィールド内のベース）で行う。
8. 走者がホームインするときや、本塁でプレイがあるときはティースタンドを素早く移動する。
9. ティーボールの試合は、タイム中でも「アピール」を受ける。

IX 補貝リ

1. 安全
 - (1) ベンチには救急箱を用意し、選手の安全には万全の体制を整えておくこと。
 - (2) スポーツ保険には必ず加入のこと。
 - (3) ベンチ内での素振りを厳禁とする。
2. 主催者は大会中の負傷に応急処置を施すが、それ以上の責任は取らない。 以上



2022年度 NPO 法人リトルリーグ北関東連盟大会内規及び運営要項

I 春季大会マイナー部門 『KEIO CUP』北関東連盟大会

- 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）で行う。
- 2) 日程 4月16日（土）～17日（日）
- 3) 主管 リトルリーグ埼玉 北エリア
- 4) 抽選会は3月26日(土) 連合チームを認める。

2022年リトルリーグ年齢表

H23	⇒誕生年(和暦)
2011年	⇒誕生年(西暦)
11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2～4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1～4/1)
小学3年	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H26	H26	H26
	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2014年	2014年	2014年
	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8
小学4年	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H25	H25	H25
	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2013年	2013年	2013年
	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9
小学5年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10

II 春季大会ティーボール部門 第38回『武蔵コーポレーション杯』

- 1) 日程 5月4日（祝水）
- 2) 主管 リトルリーグ埼玉 北エリア
- 3) 参加資格 3年生以下の男女 ベンチ入りは9名以上
- 4) 参加チーム数よる が 北関東連盟所属リーグによるトーナメントで行う。
- 5) 抽選会は4月23日(土)
- 6) リトルリーグ関東四連盟「ティーボール関東親善大会規則」を適用する。試合時間は変更する事がある。
打順はスターティングメンバー9人に固定するか、控え選手を続けて打たせるかは監督の判断に任せるが、途中からの変更は出来ない。
- 7) 登録書の提出は不要とする。（試合当日メンバー表を提出すること）

Ⅲ メジャー部門文部科学大臣杯 JA 共済トーナメント
第 56 回全日本リトルリーグ選手権 北関東連盟大会

※ 登録は 1 月 31 日までの入団生に限る

- 1) エントリー数により運営を決定。すべて全日本選手権大会ルールで行う。
- 2) 日程 4 月 24 日（日）～ 5 月 4 日（祝水）
- 3) 主管 リトルリーグ埼玉 北エリア
- 4) 抽選会は 4 月 9 日（土）

2022 年リトルリーグ年齢表

凡例：

H23	⇒ 誕生年（和暦）
2011 年	⇒ 誕生年（西暦）
11	⇒ リトル年齢

誕生月 学年	4 月 (4/2～4/30)	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月 (3/1～4/1)
小学 4 年	H24	H24	H24	H24	H24							
	2012 年	2012 年	2012 年	2012 年	2012 年							
	10	10	10	10	10							
小学 5 年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011 年	2011 年	2011 年	2011 年	2011 年	2011 年	2011 年	2011 年	2011 年	2012 年	2012 年	2012 年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学 6 年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010 年	2010 年	2010 年	2010 年	2010 年	2010 年	2010 年	2010 年	2010 年	2011 年	2011 年	2011 年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学 1 年						H21	H21	H21	H21	H22	H22	H22
						2009 年	2009 年	2009 年	2009 年	2010 年	2010 年	2010 年
						12	12	12	12	12	12	12

Ⅳ マイナー部門『AIG プレゼンツ MLB カップ 2022』北関東連盟大会

- 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3 リーグ総当たり・2 リーグ 2 試合）で行う。
- 2) 日程 5 月 8 日（日）～ 15 日（日）
- 3) 主管 リトルリーグ埼玉 南エリア
- 4) 抽選会は 4 月 23 日（土） 連合チームの編成は原則 3 リーグまで認める。

それ以上になる場合は理事長・日本協会の承認を得ること。

2022 年リトルリーグ年齢表

凡例：

H23	⇒ 誕生年（和暦）
2011 年	⇒ 誕生年（西暦）
11	⇒ リトル年齢

誕生月 学年	4 月 (4/2～4/30)	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月 (3/1～4/1)
小学 4 年	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H25	H25	H25
	2012 年	2012 年	2012 年	2012 年	2012 年	2012 年	2012 年	2012 年	2012 年	2013 年	2013 年	2013 年
	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9
小学 5 年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011 年	2011 年	2011 年	2011 年	2011 年	2011 年	2011 年	2011 年	2011 年	2012 年	2012 年	2012 年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10

V メジャー部門 『産経新聞旗争奪』第 17 回東日本選手権 北関東連盟大会

- 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）で行う。
- 2) 日程 6月12日（日）～19日（日）
- 3) 主管 リトルリーグ埼玉 南エリア
- 4) 抽選会は5月21日（土） 連合チームを認める。

2022年リトルリーグ年齢表

H23	⇒誕生日(和暦)
2011年	⇒誕生日(西暦)
11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2～4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1～4/1)
小学5年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学6年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H22	H22	H22
	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2010年	2010年	2010年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12

VI 秋季大会マイナー部門 ゼット杯北関東連盟大会

- 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）で行う。
- 2) 日程 9月4日（日）～9月11日（日）
- 3) 主管 リトルリーグ埼玉 南エリア
- 4) 抽選会は8月27日（土） 連合チームを認める

2022年リトルリーグ年齢表

H23	⇒誕生日(和暦)
2011年	⇒誕生日(西暦)
11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2～4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1～4/1)
小学3年	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H26	H26	H26
	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2014年	2014年	2014年
	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8
小学4年	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H25	H25	H25
	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2013年	2013年	2013年
	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9

Ⅶ 秋季大会インターミディエット部門『サイキョウ・ファーマ杯』（仮称）北関東連盟大会

- 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）で行う。
- 2) 日程 9月11日（日）～9月18日（日）
- 3) 主管 リトルリーグ埼玉 北エリア
- 4) 抽選会は8月27日（土） 連合チームを認める。

2022年リトルリーグ年齢表

凡例：	H23	⇒誕生年(和暦)
	2011年	⇒誕生年(西暦)
	11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2～4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1～4/1)
小学4年	H24	H24	H24	H24	H24							
	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年							
	10	10	10	10	10							
小学5年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学6年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11

Ⅷ 秋季大会ティーボール部門『フタバスポーツ杯』第8回北関東連盟大会

- 1) 日程 9月19日（祝月）
- 2) 抽選会 8月27日（土）
- 3) 主管 南エリア
- 4) 参加資格 2年生以下の男女 ベンチ入りは9名以上
- 5) 参加チーム数によるが北関東連盟所属リーグによるトーナメントで行う。
- 6) リトルリーグ関東四連盟「ティーボール関東親善大会規則」を適用する。試合時間は変更する事がある。
打順はスターティングメンバー9人に固定するか、控え選手を続けて打たせるかは監督の判断に任せるが、途中からの変更は出来ない。
- 7) 登録書の提出は不要とする。試合当日メンバー表を提出すること。

IX メジャー部門 J A 共済杯 2022 全国選抜リトルリーグ野球大会 北関東連盟大会

- 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）で行う。
- 2) 日程 9月25日(日)～10月2日(日)
- 3) 主管 リトルリーグ埼玉 北エリア
- 4) 抽選会は9月17日(土) 連合チームを認める

2022年リトルリーグ年齢表

H23	⇒誕生日(和暦)
2011年	⇒誕生日(西暦)
11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2～4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1～4/1)
小学5年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学6年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11

X 秋季大会メジャー部門 北関東連盟大会

- 1) エントリー数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）で行う。
- 2) 日程 10月10日(祝月)～10月16日(日)
- 3) 主管 リトルリーグ埼玉 南エリア
- 4) 抽選会は10月2日(日) 連合チームを認める

2022年リトルリーグ年齢表

H23	⇒誕生日(和暦)
2011年	⇒誕生日(西暦)
11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2～4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1～4/1)
小学5年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学6年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11

XI 冬季大会メジャー部門『理事長杯』北関東連盟大会

- 1) エントリー数によりトーナメントまたはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）で行う。
- 2) 日程 2月19日（日）～23日（祝木）
- 3) 主管 リトルリーグ埼玉 北エリア
- 4) 抽選会は1月29日（日） 連合チームを認める

2023年リトルリーグ年齢表

凡例：	H24	⇒誕生日(和暦)
	2012年	⇒誕生日(西暦)
	11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2～4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1～4/1)
小学5年	H24	H24	H24	H24	H24							
	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年							
	11	11	11	11	11							
小学6年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12

XII 冬季大会インターミディエイト部門『サイキョウ・ファーマ杯』（仮称）北関東連盟大会

- 1) 出場リーグ数によりトーナメント戦またはリーグ戦（3リーグ総当たり・2リーグ2試合）で行う。
- 2) 日程 2月19日（日）～23日（祝木）
- 3) 主管 リトルリーグ埼玉 南エリア
- 4) 抽選会は1月29日（日） 連合チームを認める。※北関東連盟では、中学2年の参加は認めない。

2023年リトルリーグ年齢表

凡例：	H24	⇒誕生日(和暦)
	2012年	⇒誕生日(西暦)
	11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2～4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1～4/1)
小学5年	H24	H24	H24	H24	H24							
	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年							
	11	11	11	11	11							
小学6年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12

XⅢ インターミディエット部門 J A 共済杯『サンケイスポーツ杯』全日本インターミディエット
北関東連盟大会

※ 登録は 1 月 3 1 日までの入団生に限る

- 1) エントリー数により運営を決定。すべて全日本選手権大会ルールで行う。
- 2) 日程 3 月 5 日（日）～ 2 6 日（日）
- 3) 主管 リトルリーグ埼玉 北エリア
- 4) 抽選会は 2 月 2 5 日(土) 連合チームを認める。北関東連盟では、中学 2 年の参加は認めない。

2023年リトルリーグ年齢表

凡例：	H24	⇒誕生年(和暦)
	2012年	⇒誕生年(西暦)
	11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2～4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1～4/1)
小学5年	H24	H24	H24	H24	H24							
	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年							
	11	11	11	11	11							
小学6年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12

XIV 冬季大会ティーボール部門 北関東連盟大会

- 1) 日程 3 月 12 日（日）
- 2) 主管 リトルリーグ埼玉 南エリア
- 3) 参加資格 3 年生以下の男女 ベンチ入りは 9 名以上。連合チームを認める。
- 4) 参加チーム数により北関東連盟所属リーグによるトーナメントで行う。
- 5) 抽選会 2 月 2 5 日(土)
- 6) リトルリーグ関東四連盟「ティーボール関東親善大会規則」を適用する。試合時間は変更する事がある。
打順はスターティングメンバー 9 人に固定するか、控え選手を続けて打たせるかは監督の判断に任せるが、途中からの変更は出来ない。
- 7) 登録書の提出は不要とする。（試合当日メンバー表を提出すること）

2022年 リトル選手登録年齢早見表

NPO 法人リトルリーグ北関東連盟 競技部 2022年4月作成

リトルリーグにおける選手の年齢は、国際登録の関係から下記のように区分されます。
各種登録書類に年齢を記入する際は、この早見表を確認の上、ご記入下さいようお願い致します。
なお、連盟およびブロックが主催する大会は、理事会の承認を得て登録選手の年齢枠を変更する場合がありますのでその指示に従ってください。

凡例：

H23	⇒誕生年(和暦)
2011年	⇒誕生年(西暦)
11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学2年	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H27	H27	H27
	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2015年	2015年	2015年
	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7
小学3年	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H26	H26	H26
	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2014年	2014年	2014年
	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8
小学4年	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H25	H25	H25
	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2013年	2013年	2013年
	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9
小学5年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学6年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H21	H22	H22	H22
	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2009年	2010年	2010年	2010年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12

以上

2023年 リトル選手登録年齢早見表

NPO 法人リトルリーグ北関東連盟 競技部 2022年4月作成

リトルリーグにおける選手の年齢は、国際登録の関係から下記のように区分されます。

各種登録書類に年齢を記入する際は、この早見表を確認の上、ご記入下さいますようお願い致します。

なお、連盟およびブロックが主催する大会は、理事会の承認を得て登録選手の年齢枠を変更する場合がありますのでその指示に従ってください。

凡例：	H24	⇒誕生日(和暦)
	2012年	⇒誕生日(西暦)
	11	⇒リトル年齢

誕生月 学年	4月 (4/2~4/30)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月 (3/1~4/1)
小学2年	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H27	H28	H28	H28
	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2015年	2016年	2016年	2016年
	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7
小学3年	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H26	H27	H27	H27
	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2014年	2015年	2015年	2015年
	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8
小学4年	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H25	H26	H26	H26
	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2013年	2014年	2014年	2014年
	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9
小学5年	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H24	H25	H25	H25
	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2012年	2013年	2013年	2013年
	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10
小学6年	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H23	H24	H24	H24
	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2011年	2012年	2012年	2012年
	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11
中学1年	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H22	H23	H23	H23
	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2010年	2011年	2011年	2011年
	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12

変 更 届

NPO 法人リトルリーグ北関東連盟

埼玉エリア

競 技 部 殿

年 月 日 の試合において

監督、コーチ、引率責任者の変更を下記のとおりお届けします。

	監 督	コ ー チ	引率責任者
登 録 者 名			
変 更 者 名			

年 月 日

リーグ名

会 長 名

㊞

※会長名は会長・副会長・事務局長名印（三役）可